



平成23年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年8月9日

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理部長 (氏名) 鷺本 晴吾 (TEL) 03(5733)2121
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第3四半期の連結業績（平成22年10月1日～平成23年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第3四半期	5,720	98.6	1,573	—	1,531	—	1,657	—
22年9月期第3四半期	2,880	△23.5	△1,855	—	△1,888	—	△1,690	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年9月期第3四半期	1,376.37	1,375.45
22年9月期第3四半期	△1,399.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年9月期第3四半期	7,009	4,872	57.7	3,392.17
22年9月期	7,352	3,164	33.3	2,024.72

(参考) 自己資本 23年9月期第3四半期 4,042百万円 22年9月期 2,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年9月期	—	0.00	—		
23年9月期(予想)				—	—

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

平成23年9月期の期末の1株当たり配当金については未定であります。

3. 平成23年9月期の連結業績予想（平成22年10月1日～平成23年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通 期	5,620	62.2	1,420	—	1,370	—	1,260	1,048.75

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他 (詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。)

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
 新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー
 (注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有
 (注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
 ② ①以外の変更 : 無
 (注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年9月期3Q	1,209,043株	22年9月期	1,208,135株
② 期末自己株式数	23年9月期3Q	17,400株	22年9月期	ー株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年9月期3Q	1,204,143株	22年9月期3Q	1,208,135株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
【第3四半期連結累計期間】	7
【第3四半期連結会計期間】	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済環境は、海外経済の成長や政府の経済対策により持ち直しの動きが見られていた状況が東日本大震災の影響により一転し、生産、輸出が大きく落ち込み、需要面でも企業や家計のマインドが悪化したことで、下押し圧力が続くこととなりました。

このような経済環境において、当社グループは企業を支援するブティック型投資銀行としての業務を展開しました。投資銀行事業においては、顧客企業に対しフィナンシャル・アドバイザー（FA）業務を提供し、そこで把握されたニーズに合うファイナンスアレンジ等を提案、実行しております。FA業務は上場企業等を中心に顧客層を拡大してきており、安定的な収益基盤になるとともに、ファイナンスアレンジに進むことで更なる収益を獲得しております。さらに、プリンシパルファイナンス事業では、投資銀行事業の中で見出された企業・事業への投融資機会に対し、積極的にファイナンスを実行しております。しかしながら、当第3四半期においてはエクイティ投資のエグジット案件がなく、利益貢献には至っておりません。一方で、アセットマネジメント（AM）・アドバイザー事業においては、平成23年4月28日付で投資運用会社である株式会社OGIキャピタル・パートナーズ（同日付でFGIキャピタル・パートナーズ株式会社に商号変更）を子会社化しております。これにより、当社グループの投資運用対象がこれまでの不動産から有価証券等にも広がり投資運用機能が強化されるとともに、当社グループの安定的収益源となる運用資産が大幅に増加しました。さらに当社グループは、証券会社、投資運用会社、プリンシパル投資会社を擁し、より包括的に金融サービスが提供できる体制を整えることができました。また、同社の子会社化を契機として、人員配置の見直し・拡充を含めグループ会社の営業体制の充実化を進めるとともに、コンプライアンス体制をより一層強化することで、今後の営業展開への先行投資を進めております。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間（平成22年10月1日～平成23年6月30日）の経営成績については、売上高は第2四半期中の担保不動産の売却（32億円）の影響もあり5,720百万円（前年同期比98.6%増）となりました。営業損益については、前年同期比で人件費等の経費が減少し投融資に係る大きな損失計上がなかったことにより1,573百万円の営業利益（前年同期は1,855百万円の損失）となり、経常利益は1,531百万円（前年同期は1,888百万円の損失）、四半期純利益は1,657百万円（前年同期は1,690百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

①投資銀行事業

当事業を行うフィンテックグローバル証券㈱は、徹底して顧客ニーズに対応することで、既存のフィナンシャル・アドバイザー（FA）業務提供先の深耕、および新規FA先の獲得に注力し、FA業務受託顧客からファイナンスアレンジメント業務を受託しております。この結果、投資銀行事業の売上高は358百万円、営業利益は118百万円となりました。

なお当社グループにおいては、同社で見出された投融資機会に対し当社グループがファイナンスを実行するとともに、AM子会社に対してもAM業務などの収益機会が提供されることで、グループ全体の収益拡大に貢献しております。

②アセットマネジメント・アドバイザー事業

当事業はフィンテックアセットマネジメント㈱及び当第3四半期に子会社化したFGIキャピタル・パートナーズ㈱の業績を取り込んでおります。

フィンテックアセットマネジメント㈱では、第2四半期末にAM受託案件が一部終了したことにより、当第3四半期に入ってからAM売上は伸び悩んだものの、プライベートエクイティ事業で新規の経営管理業務を受託したことにより、当該売上が伸張しました。

FGIキャピタル・パートナーズ㈱は、主力ファンドのグローバル・マクロの運用資産が新規受託により大幅に増加しております。ベンチャー投資運用では、日本を含むアジアでのテクノロジー・ベンチャー企業に注目し、投資ならびに投資先の経営指導等を行っております。この他、更なる収益拡大に向け、新しい投資戦略の準備を進めており、今後の運用資産の拡大を企図しております。

この結果、アセットマネジメント・アドバイザー事業の売上高は355百万円、営業利益は22百万円となりました。

③公共財関連事業

当事業は㈱パブリック・マネジメント・コンサルティングが公会計事業と公共ファイナンス事業を行っております。公会計事業では、バージョンアップした公会計ソフト（PPP）と新商品である「財政改革ツール 改革」で競合他社と差別化を図るなど活発な営業活動を展開した結果、東京特別区で2件の公会計コンサル契約を新規獲得した他、新規事業である「公共施設マネジメント白書」の作成支援業務の第1号案件の受託が内定するなどの成果が出ております。なお新たな取組みである公共ファイナンス事業では、東北震災地のファイナンス支援取組みを推進しております。

しかしながら、複数自治体との契約が予定時期より遅れたことにより売上高及び営業損益とも計画値を下回ったため、公共財関連事業の売上高は150百万円、営業損失は24百万円となりました。

④プリンシパルファイナンス事業

当事業では、当社（フィンテックグローバル㈱）が自己投融資事業を行っております。当連結会計年度においては、これまで投融資対象の中心であったアセットファイナンスや不動産セクターの事業会社へのファイナンスに限らず、潜在性・将来性豊かな上場／未上場企業に対しファイナンスを行い、その再生・発展を支援し企業価値を高めることで、将来収益の拡大を目指す投資戦略を強化、推進しております。第3四半期の投融資のポートフォリオとしては、実行中の不動産投資案件が進捗したことにより販売用不動産が減少する一方、当社が企業・事業へエクイティ投資を実行したことで投資事業有限責任組合出資金等が増加しております。しかしながら、当第3四半期においてはエクイティ投資案件のエグジットはなく、利益貢献には至りませんでした。

このため、当第3四半期においては大きな利益の伸張が見られず、プリンシパルファイナンス事業の売上高は3,796百万円、営業利益は1,885百万円となりました。

⑤その他投資先事業

当事業では、コア事業以外の純投資を目的とした事業会社による収益を計上します。

㈱ベルスは、収入低迷している貸貸市況や顧客の異動減少等により貸貸ビジネスが厳しく、売上高、売上総利益は計画を下回る状況となりましたが、住宅購入支援ビジネスの各種施策（キャンペーン等）が奏功し当該部門単体で計画を上回る売上高となったこと及び経費削減等の努力により、営業利益は計画を上回る状態で推移したことにより、同社単体で売上高は393百万円、営業利益は41百万円となりました。

Crane Reinsurance Limitedは、引き続きHardy Underwriting Bermudaのシンジケート382から傷害保険等のリスクを引き受けております。平成23年3月11日に発生した東日本大震災による業績への影響は限定的であり、現時点においては通期業績予想に対しては予定通りの進捗となっており、同社単体で売上高は666百万円、営業利益は63百万円となりました。

これらの主な子会社及び他の子会社の経営成績により、その他投資先事業の売上高は1,059百万円、営業損失は4百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は7,009百万円（前連結会計年度末比4.7%減）となりました。これは主として、販売用不動産が1,568百万円、営業投資有価証券が4,079百万円（うち直接償却による減少は4,549百万円）、営業貸付金が2,465百万円（うち直接償却による減少は2,155百万円）減少したものの、現金及び預金が1,358百万円増加し、貸倒引当金が6,733百万円減少（うち直接償却による減少は6,705百万円）したことによるものであります。なお、直接償却の影響を除いた増減額は、営業投資有価証券は470百万円の増加、営業貸付金は309百万円の減少、貸倒引当金は28百万円の減少となっております。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は2,137百万円（前連結会計年度末比49.0%減）となりました。これは主として、買入消却により新株予約権付社債が1,200百万円、当社新株予約権付社債を担保とした借入の返済等により長期借入金が958百万円減少したものの、未払金が119百万円、保険契約準備金が290百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,872百万円(前連結会計年度末比54.0%増)となりました。これは主として、当社の減資による欠損填補等や四半期純利益1,657百万円の計上により、資本金が8,451百万円、資本剰余金が10,346百万円減少し利益剰余金が20,463百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

上記の通り、FA業務、AM業務での安定的収益を確保しつつ、FA受託先からのアレンジメント業務受託も順調に推移してきております。一方で、プリンシパルファイナンス事業において、積極的な企業・事業投資によりその投融資残高が徐々に積み上がっておりますが、当第3四半期においてはエグジット案件がなく、利益への貢献には至っておりません。投資先企業については着実に企業価値を向上させており、今後は投資先企業の業績動向や外部の経済環境をみて、投資回収の検討を進めることとなりますが、米国の景気の先行きやユーロ圏の財政問題への懸念、急激な為替変動などにより外部環境が不確実性を増す中で、そのエグジットの実行や時期については慎重に検討していくべきと思料いたします。業績見通しについては、これらの投資回収の実行の有無と時期に大きく左右されることとなるため、現段階において従来の業績予想値を変更せず、プリンシパルファイナンス事業を含む各事業の進捗を見極めた上で、判明次第お知らせいたします。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ6百万円減少しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,188,448	829,661
売掛金	156,326	67,083
営業投資有価証券	1,880,841	5,960,043
販売用不動産	61,865	1,630,622
繰延税金資産	5,552	1,083
営業貸付金	2,852,105	5,317,419
未収入金	794,216	—
その他	148,311	329,447
貸倒引当金	△2,139,699	△8,873,539
流動資産合計	5,947,967	5,261,820
固定資産		
有形固定資産	146,261	150,054
無形固定資産		
のれん	499,164	402,794
その他	34,080	39,767
無形固定資産合計	533,245	442,561
投資その他の資産		
投資有価証券	51,967	1,163,636
敷金及び保証金	222,570	221,535
その他	107,971	112,821
投資その他の資産合計	382,509	1,497,993
固定資産合計	1,062,016	2,090,609
資産合計	7,009,984	7,352,430

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,680	14,175
短期借入金	59,000	66,000
1年内返済予定の長期借入金	80,000	125,000
未払金	212,172	92,750
未払費用	52,402	152,530
未払法人税等	8,426	32,150
賞与引当金	24,581	42,578
その他	648,520	722,535
流動負債合計	1,094,783	1,247,720
固定負債		
新株予約権付社債	—	1,200,000
長期借入金	67,495	1,026,449
繰延税金負債	70,093	56,802
退職給付引当金	80,568	71,834
保険契約準備金	733,427	442,437
その他	91,154	142,629
固定負債合計	1,042,738	2,940,154
負債合計	2,137,522	4,187,874
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,312,384	10,764,317
資本剰余金	5,183	10,351,900
利益剰余金	1,924,801	△18,538,744
自己株式	△52,412	—
株主資本合計	4,189,956	2,577,473
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,351	—
為替換算調整勘定	△153,053	△130,878
評価・換算差額等合計	△147,702	△130,878
新株予約権	17,852	21,811
少数株主持分	812,355	696,149
純資産合計	4,872,461	3,164,555
負債純資産合計	7,009,984	7,352,430

(2) 四半期連結損益計算書
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)
売上高	2,880,336	5,720,461
売上原価	2,030,748	2,556,213
売上総利益	849,587	3,164,248
販売費及び一般管理費	2,705,563	1,591,155
営業利益又は営業損失(△)	△1,855,975	1,573,092
営業外収益		
受取利息	8,570	3,767
為替差益	41,172	—
確定拠出年金返還金	9,110	1,261
その他	12,212	5,092
営業外収益合計	71,066	10,120
営業外費用		
支払利息	16,871	38,482
有価証券運用損	46,180	1,134
支払手数料	39,009	1,975
その他	1,191	10,057
営業外費用合計	103,253	51,649
経常利益又は経常損失(△)	△1,888,162	1,531,563
特別利益		
新株予約権付社債償還益	329,000	298,800
その他	82,473	122,946
特別利益合計	411,473	421,746
特別損失		
関係会社整理損	291,403	—
投資有価証券売却損	—	226,874
投資有価証券評価損	0	1,208
出資金清算損	1,556	2,686
前期損益修正損	142	—
その他	27,265	60,958
特別損失合計	320,368	291,727
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,797,057	1,661,581
法人税、住民税及び事業税	33,101	35,123
法人税等調整額	9,834	8,821
法人税等合計	42,936	43,945
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,617,636
少数株主損失(△)	△149,381	△39,711
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,690,612	1,657,347

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	288,079	742,942
売上原価	74,688	436,879
売上総利益	213,391	306,063
販売費及び一般管理費	1,293,854	524,406
営業損失(△)	△1,080,463	△218,343
営業外収益		
受取利息	505	1,162
受取地代家賃	—	1,624
為替差益	32,101	—
その他	8,097	1,342
営業外収益合計	40,705	4,129
営業外費用		
支払利息	15,034	1,121
有価証券運用損	51,607	1,891
支払手数料	5,945	495
為替差損	—	8,019
その他	1,012	1
営業外費用合計	73,599	11,530
経常損失(△)	△1,113,357	△225,744
特別利益		
貸倒引当金戻入益	△132,416	15,705
持分変動利益	—	36,944
その他	6,228	1,372
特別利益合計	△126,187	54,023
特別損失		
関係会社株式評価損	19,864	15,115
持分変動損失	18,915	—
その他	999	4,661
特別損失合計	39,780	19,776
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,279,325	△191,497
法人税、住民税及び事業税	29,139	4,084
法人税等調整額	3,623	676
法人税等合計	32,762	4,760
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△196,258
少数株主損失(△)	△26,682	△18,293
四半期純損失(△)	△1,285,405	△177,964

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

	投資銀行 事業 (千円)	再保険保証 事業 (千円)	不動産関連 事業 (千円)	その他 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	59,943	△13,263	218,338	23,062	288,079	—	288,079
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	57,561	—	—	—	57,561	(57,561)	—
計	117,504	△13,263	218,338	23,062	345,641	(57,561)	288,079
営業利益又は営業損失 (△)	△971,435	△31,308	21,406	△34,088	△1,015,426	(65,036)	△1,080,463

(注) 1 事業の区分は、市場の類似性を考慮して区分しております。

2 各区分の主な業務内容

- (1) 投資銀行事業・・・アレンジャー業務、プリンシパルファイナンス業務、その他投資銀行業務
- (2) 再保険保証事業・・・信用補完・再保険の引受業務
- (3) 不動産関連事業・・・不動産開発・売買・賃貸・仲介業務
- (4) その他事業・・・公会計用ソフトウェアの開発・販売、コンサルティング

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

	投資銀行 事業 (千円)	再保険保証 事業 (千円)	不動産関連 事業 (千円)	その他 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	291,653	772,787	1,671,068	144,826	2,880,336	—	2,880,336
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	57,561	—	—	—	57,561	(57,561)	—
計	349,215	772,787	1,671,068	144,826	2,937,897	(57,561)	2,880,336
営業利益又は営業損失 (△)	△1,766,764	△121,477	114,906	△74,313	△1,847,649	(8,326)	△1,855,975

(注) 1 事業の区分は、市場の類似性を考慮して区分しております。

2 各区分の主な業務内容

- (1) 投資銀行事業・・・アレンジャー業務、プリンシパルファイナンス業務、その他投資銀行業務
- (2) 再保険保証事業・・・信用補完・家賃保証・再保険の引受業務
- (3) 不動産関連事業・・・不動産開発・売買・賃貸・仲介業務
- (4) その他事業・・・公会計用ソフトウェアの開発・販売、コンサルティング

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

	日本 (千円)	欧米 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	301,591	△13,511	288,079	—	288,079
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	301,591	△13,511	288,079	—	288,079
営業損失(△)	△989,557	△73,556	△1,063,114	(17,348)	△1,080,463

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

欧米：スイス、バミューダ

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

	日本 (千円)	欧米 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	2,449,677	430,658	2,880,336	—	2,880,336
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	2,449,677	430,658	2,880,336	—	2,880,336
営業損失(△)	△1,488,745	△400,264	△1,889,009	33,034	△1,855,975

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

欧米：スイス、バミューダ

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

	欧米	計
I 海外売上高（千円）	△13,511	△13,511
II 連結売上高（千円）	—	288,079
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	△4.7	△4.7

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

欧米：バミューダ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日）

	欧米	計
I 海外売上高（千円）	430,658	430,658
II 連結売上高（千円）	—	2,880,336
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	15.0	15.0

（注）1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

欧米：バミューダ

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

① 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「投資銀行事業」、「アセットマネジメント・アドバイザー事業」及び「公共財関連事業」をコア事業として位置づけており、それぞれの事業を子会社が行っております。これらに、当社が自己投融資を行う事業である「プリンシパルファイナンス事業」及び投資先の事業会社の収益を取り込む「その他投資先事業」を加えた5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの事業内容は以下の通りであります。

- ・投資銀行事業

ファイナンスアレンジメント・アドバイザー、エグゼキューション業務受託、証券業務

- ・アセットマネジメント・アドバイザー事業

アセットマネジメント業務（不動産投資運用、ヘッジファンド・ベンチャー投資ファンド運用等）、フィナンシャル・アドバイザー業務、資金調達・財務改善コンサルティング、M&Aアドバイザー業務

- ・公共財関連事業

公会計のシステム開発、販売及び導入コンサルティング並びに財政改革コンサルティング、公共ファイナンス事業

- ・プリンシパルファイナンス事業

自己投融資事業

- ・その他投資先事業

コア事業以外の純投資を目的とした事業会社による事業

② 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント・ア ドバイザ リー 事業	公共財 関連 事業	プリンシ パ ル ファイ ナ ンス 事業	その他 投資先 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	358,499	355,101	150,579	3,796,817	1,059,462	5,720,461	—	5,720,461
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	13,923	5,715	6,214	9,085	2,700	37,637	△37,637	—
計	372,422	360,816	156,794	3,805,902	1,062,162	5,758,098	△37,637	5,720,461
セグメント利益 又は損失(△)	118,539	22,199	△24,886	1,885,708	△4,859	1,996,700	△423,608	1,573,092

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△423,608千円には、セグメント間取引消去283,077千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△706,685千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。また、フィンテックグローバル㈱に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業135,000千円、アセットマネジメント・アドバイザリー事業136,200千円、公共財関連事業13,500千円を負担しております。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメント・ア ドバイザ リー 事業	公共財 関連 事業	プリンシ パ ル ファイ ナ ンス 事業	その他 投資先 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	60,075	181,423	29,855	275,364	196,223	742,942	—	742,942
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,583	900	4,500	—	900	8,883	△8,883	—
計	62,659	182,323	34,355	275,364	197,123	751,826	△8,883	742,942
セグメント利益 又は損失(△)	△31,356	3,598	△27,440	27,528	△61,765	△89,434	△128,909	△218,343

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△128,909千円には、セグメント間取引消去82,788千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△211,697千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル㈱に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業45,000千円、アセットマネジメント・アドバイザリー事業46,200千円、公共財関連事業4,500千円を負担しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	10,764,317	10,351,900	△18,538,744	—	2,577,473
当第3四半期連結会計期間末までの変動額					
減資	△8,454,298	8,454,298	—	—	—
欠損填補	—	△18,806,198	18,806,198	—	—
新株の発行	2,365	14	—	—	2,379
四半期純利益	—	—	1,657,347	—	1,657,347
自己株式の取得	—	—	—	△60,244	△60,244
自己株式の処分	—	5,168	—	7,831	13,000
当第3四半期連結会計期間末までの変動額合計	△8,451,933	△10,346,716	20,463,546	△52,412	1,612,483
当第3四半期連結会計期間末残高	2,312,384	5,183	1,924,801	△52,412	4,189,956